

日本聖公会 神戸教区報

神のおとずれ

2011年 12月 クリスマス号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
http://www.nskk.org/kobe/

発行責任者
司祭 芳我 秀一

印刷所
文明堂印刷所

悲しみのクリスマス

主教 アンデレ 中村 豊

戦後最大の災害となった東日本大震災に見舞われた2011年もようやく終わりを告げようとしております。

大震災から9か月、家族や友人、家を失った人たちは悲しみにくれ、福島第一原子力発電所の爆発により放出された放射能物質で汚染された土地に住む人たちは、移住を余儀なくされ、厳しい冬がやってきました。

人生の光と陰

欧米の習慣では、離ればなれになっている人たちが、クリスマスの日に関親の元に帰り、ごちそうを食べながら一年の出来事を語り合い、その後の休暇を楽しみます。日本

での正月の習慣に似ておりますが、これから迎える被災地での正月は、今までとは全く違った様相を呈することになります。

家族・親せきが一堂に会し、わいわい、がやがやと新年の挨拶を交わしたのは、過去の思い出しかないという方も多くおられるのです

「マッチ売りの少女」の一場面を思い出します。

冬にもかかわらず裸足の少女が震えながら、通りに面した部屋を窓越しに、じっと見つめております。テーブルには七面鳥の丸焼きが置かれ、その脇には数々のオードブル、



[エジプトへの逃亡] レンブラント作

きらびやかに飾られたクリスマス・ツリーの根元には、たくさんのプレゼントが置かれ、こうこうと燃えさかる暖炉の火は部屋を暖めるに十分過ぎるほどです。部屋の中央には、自分と同じ年頃の少女が天使

エス誕生の知らせを聞いて、やがて自分の地位を脅かす存在となるであろうイエスの存在を、許すことができなかったヘロデ王は、ベツレヘムに住む2才以下の男の子を全て殺すように命じました。

たのです。

何の罪もない幼子の死は母親を半狂乱にしました。母親たちをいくら慰めても、亡くなった幼子は帰ってこないのです。

聖なる幼子と なられたイエス

イエスの母マリアとヨセフは、いち早くヘロデ

王の策略を察知し、夜中にベツレヘムを脱出し、エジプトに逃れました。我が子をベツレヘムで産んだことによって、他の多くの幼子が犠牲となりましたが、背後から、幼子を亡くした両親の嘆きの声や罵

声を聞きながらの逃亡であったのです。

二人は、申し訳ないという思いに心が張り裂けんばかりであったことでしょう。同時に、イエスの誕生にどれだけの意味、価値があるのだろうか。そのような問いを夫婦は発していたに違いありません。成人したイエスは、30数年前、自分と同世代の子どもたちがベツレヘムでどのような運命となったかを知っていたかもしれません。そしてイエスも、理不尽極まりない状態のなかで、十字架という最も残忍な処刑方法で死に、土壇場に立たれたのです。イエスの死を目の当たりにすることによって、母マリアもベツレヘムの母親の立場に立たされたのでした。

愛する者を理不尽なかたちで失った人々と共におられ、「(その)涙をことごとくぬぐい取ってください(ヨハネ黙示録21章4節)」かたがこの世界に現れた。

これをお祝いするのが、クリスマスなのです。

今までの東日本大震災救援活動について

東日本大震災対策室室長 司祭 ヨハネ 芳 我 秀 一

今年3月11日の東日本大震災発生後より、神戸教区でも救援活動を開始しましたが、現在までの活動内容は以下の3つの期間に分けられます。



3月28日(月) 小名浜聖テモテ教会・幼稚園にて支援物資仕分・配送作業

第1期 緊急支援活動

(3月12日～4月12日)

3月12日(土)に神戸教区東日本大震災救援本部を設置して救援活動を開始。大震災祈禱を作成して、まずは祈ることを呼びかけ、そして小名浜聖テモテ教会と幼稚園を中心に、人材を

派遣し、物資を送って小名浜地区の病院、特別養護老人ホームなどの施設支援、被災地への問接を行いました。この間活動した神戸教区関係者は聖職9名、神学生2名、信徒2名でした

第2期 日立ボランティアセンター設立とその救援活動

(4月13日～6月30日)

4月8日に京都・大阪・神戸3教区の主教および各教区の震



5月10日(火) いわき市南の森スポーツセンター(避難所) おかし屋台

5月13日(金) いわき市の中之作漁港での側溝泥かき作業グループ



災救援責任者が大阪教区事務所に集まり、3教区が協力して、北関東教区日立聖アンデレ教会を基地として、いわき市以南地域被災者への救援活動を実施することになりました。

ボランティアセンターの責任者となる現地調整者を各教区が一ヶ月交代で派遣することになり、4月19日にセンター開所式が行われ、本格的な救援活動が始まりました。またこれに伴い、神戸教区では救援本部を解散し、東日本大震災対策室が設置されました。

主な活動内容は泥かき、傾聴ボランティア、おかし屋台や足湯などのイベント、教会・幼稚園および近隣の復旧手伝いなどです。他教派の教会の人々とも

連携してのイベントも実施しました。

この期間のボランティア登録者は併せて123名。その内、神戸教区からはのべ46名でした。さらに日立、日光の教会信徒も加わって160名以上の人たちがボランティア活動に従事されました。

第3期 小名浜聖テモテ・ボランティアセンター設立とその救援活動

(7月～2012年6月)

日立ボランティアセンターの救援活動終了に伴って、京都・大阪・神戸3教区は、拠点を日立市からいわき市小名浜に移し、



10月4日(火) 仮設住宅駐車場にて「ほっこりカフェ」開店

2012年6月までの息の長い救援活動として、新しいプロジェクトを足元させました。

またこのプロジェクトから、日本聖公会東日本大震災被災者支援組織「いっしょに歩こう! プロジェクト・いわきオフィス」の運営に参画することになりました。

今回も現地調整者を各教区が一ヶ月交代で派遣することになり、7月と10月は神戸教区から担当者を派遣しました。主な活動は仮設住宅への引越し手伝いや、仮設住宅の方々の買い物代行などの手伝い、放射能汚染の軽減のための幼稚園の除染・塗装作業や、被災者と周辺住民との交流の場である「ほっこりカフェ」の開店などです。

今後の展望について

現在、小名浜地区の被災者は仮設住宅や借り上げ住宅に入居しているので、地域復興までここで生活することになります。従って、ボランティアセンターは仮設住宅自治会とよく協議しながら、被災者のニーズに即した活動が求められます。そのためにも、仮設住宅地域にボランティアの拠点を設けて、毎日、顔と顔を合わせるきめ細かい活動が求められており、今後とも皆さまのお祈り、またご支援をお願いいたします。

東日本大震災関連情報

神戸松蔭女子学院大学 第6回 東日本大震災 お祈りと報告の集い

東日本大地震発生以来、月例で催されている「第6回・東日本大震災くお祈りと報告会」を11月10日に開催しました。

今回は、報告者に越山健蔵司祭（日本聖公会 東北教区小名浜聖テモテ教会牧師）をお迎えし、チャペルに学生・教職員・神戸教区聖職者等、約50名が集まり、お祈りを捧げた後、現地からの報告を伺いました。



聖歌隊の歌声と共に、越山司祭様より現地からの報告を伺いました。

物的・人的支援への感謝、また松蔭の学生が送って、教会附属の聖テモテ幼稚園に飾られている千羽鶴への御礼を語られた後、今も放射線の不安の中で過ごされている福島の人々の現状を報告されました。

最後に越山牧師は、4月11日に開催された第1回の報告会で語られた坪井チャペレンの「神戸のわたしたちになにができることは、ほとんどないかもしれないが、いつも心のどこかに被災地のことを思って、とげのような痛みを持ち続けて欲しい」という現地報告を読み上げられ、「被災地の願いは、今日も忘れないでいて欲しい、そして、いつも共にいて欲しい、ということですよ」というボランテニア活動の基本姿勢を静かな、しかし、噛みしめるような口調で、一同に、語りかけて下さり、その後、主の祈り、祝福をもって、今回の報告会は閉会となりました。

（神戸松蔭女子学院大学
非常勤チャペレン

司祭 藤井 尚人



鳩だより 《敬称略》

祝 聖 信

9月25日(日) 檜山ミヨ
ブリジット 檜山和司
クリストファー 檜山和司
神戸聖ミカエル教会

10月2日(日)

パウロ 三宅 祐二郎
パウロ 芳我 誠司
エルザベト 野間 共喜
アンナ 林 真里奈
村田 アンナ
姫路顕栄教会

ご 逝 去

10月9日(日)
リベカ 赤木 榮(92歳)
広島復活教会

神戸伝道区

◎第二回伝道区会開催

10月2日(日) 15:00開催
11月27日(日)に、神戸聖ヨハネ教会にて、伝道区内教会が協力しながら小名浜ボランテニアセンター支援バザーを開催することを決定した。

山陰伝道区

◎信徒修養会開催

10月22日〜23日(土・日)
にかけて、島根県浜田市金城

町の美又温泉「金城観光ホテル」において、講師に中部教区の洪澤一郎主教様をお迎えして、山陰伝道区信徒修養会が開催されました。参加者は約50名。



洪澤一郎主教様と共に。(金城観光ホテルにて)

信徒修養会の主な内容として、1日目は主教様による講話、その後、食事を共にしながら、各教会の自己紹介と親睦、伝道区会を行ない、2日目は聖餐式が行われました。主教様の講話の中で特に印象的だったのは、「あれしかない。これしかない」と私達は嘆くが、しかし、私達の持っているもの、有るものをしっかりと見つめること、これだけあると思うことが大切。私達の持っているものでイエス様は祝福される」というお話しでした。

現代は「：しかない」から「：もある」という発想、信仰が個人的にも、教会的にも非常に大切で、これからの重要な鍵となると感じました。

1月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2012年1月5日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 中村 豊
説教 司祭 上原 信幸

* 1月の記念逝去教役者 *

1日	司祭	ウィリアム	R・グレイ	
3日	司祭	パウロ	辻井 亨	
3日	司祭		横田 金熊	
5日	司祭	ステパノ	福島 国五郎	
6日	伝道師	ルデア	武田 八重	
10日	司祭	オーガスチン	林 普佐夫	
11日	宣教師	ジェシー・E	ヴォーブルズ	
12日	司祭	ヨハネ	信岡 修一	
12日	宣教師	ステラ	寺本 房治	
15日	司祭	ヨハネ	中野 欽之	
15日	司祭		ヨハネ	八代 野林
17日	司祭		ベテロン	宇野 秀太
19日	司祭		オーガスチン	小大 秋田
22日	司祭			松田 今
25日	司祭			
27日	司執			
27日	司祭			
27日	伝道師			

Q クリスマスの飾りにはどのようなものがありますか？

A 最も有名な飾りは、なんとと言ってもクリスマスツリーでしょう。それ以外に礼拝堂などには、クリブ(プレゼビオ)と呼ばれる、聖誕のシーンをかたどった人形セットを飾ります。イエスの誕生物語に基づき、家畜小屋の聖家族とそれを祝う3人の占星術師、牛、羊などの動物や羊飼いたちの人形(大きさは実に様々で、実物大のものもあるようです)を作り、クリスマスの期間中、ロウソクを灯して祭る習慣が、古くからヨーロッパ中(特にイタリアあたり)に広がっていました。アッシジの聖フランチェスコが始めたといわれていますが、すでに8世紀にローマの教会にあったという説もあります。

テレビがなく本が高価な時代、このように見える形で、イエス・キリストの降誕を人々に伝えお祝いしたようです。

キリスト教入門 Q&A

執事 イサク 坪井 智

松蔭中学校・高等学校チャプレン・
神戸松蔭女子学院大学非常勤チャプレン

最近では、クリスマスリースを手作りして飾るところが増えてきました。リースの「円」や「輪」の形には、「つきることのない、永遠の、完全」という意味があり、永遠に注がれる神の愛のシンボルにつかわれていました。つるや枝を丸めた台に、ひいらぎや松、木の実などを飾りますが、特にクリ

スマスリースは、常緑の葉を使い、永遠の生命を表す事が多いようです。さて、リースと同じように作った輪を横にして、等間隔に4本のろうそくを立てた王冠のようなものがアドベント・克蘭ツです。アドベントの期間には、日曜日ごとに1本ずつ克蘭ツのロウソクに灯をともしていきます。イブのすぐ前の日曜日には、4本すべてに灯がともり、「いよいよクリスマスだ」という事を表します。



クリスマス、ちよっといい話

ある人がクリスマスマスの時期に教会の前を通りかかりました。教会の掲示版にクリスマス礼拝の案内が出ているのを見て言いました。「へーえ、最近じゃ、教会でもクリスマスやるのか」(笑)。このような小喃はもはや、クリスマス説教のマクラの定番でして、秀逸(！)などころでは、このような簡潔なクリスマス小喃もあります。クリスマスパーティーを終えたある人が何かに気付いて叫びました。「ああ、主人公を招くのを忘れた！」。

では、ご存知の方もおられると思いますが、小職のお気に入り小喃もここで紹介いたします。

ある年のクリスマス、ニューヨーク(ここは、みなさんの住んでおられる街で結構です)に主イエスが来られるというニュースが流れました。それをいち早く知った大会社の社長が「よし、俺の新車で一番先に迎えにいこう」と決心しました。しかし「待てよ、主イエスと一諸に街中を走ると、あのホームレスを乗せてやれとか、あの寂しそうな老人の前で止まれとか、言うのではないか」とあれこれ想像し、迎えにいくことを止めてし

まい、結局、主イエスがニューヨークに着いた時には、誰一人お迎えに行きませんでした。

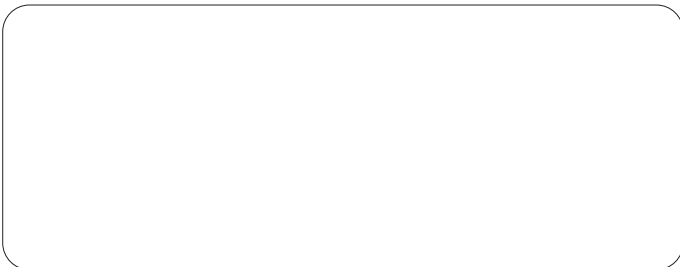
それでは、最後に、もうひとつ・・・

ある年のクリスマスイブ、若い男の子が亡くなり、牧師はその家を訪ねました。玄関のドアをノックすると目には涙が溢れている父親が迎え入れてくれました。居間には男の子の棺が安置してあります。父親は牧師に「妻は二階にいます。行って話しをしてやって下さい」と促し、牧師は勇気を振り絞って二階の扉を開けました。そこには、若いお母さんが黙って座っていました。牧師は何と声をかけたらいいのだろう、と考えあぐねていると、お母さんの方からこのように口を開きました。「神さまは、私たちに息子を与えて下さりました。そして、今、天国に連れてお帰りになりましたので、こう続けられました。「神さまも、独り子を亡くされました。ですから、私たちの悲しみを、十分にわかってくださっています」。



(N・F)

どうぞ、教会のクリスマスにお越しください。



祈りと連帯の十字架ペンダント



3月11日の大震災直後から、守口復活教会では十字架ペンダントの製作に取り掛かりました。

一個：300円で収益金は被災者支援の為に献げられます。このプロジェクトは、来年の3月末までを予定していますが、できるだけ早い目にご注文下さい。注文は、教会単位でまとめて。

e-mail: myamanoue@hotmail.com

Fax & Tel: 06-6992-3307 守口復活教会まで、教会名と注文個数をご連絡ください。

(司祭 ダニエル 山野上 素充)